

平成22年度 学校自己評価システムシート（県立春日部東高等学校）

目指す学校像	文武両道の進学校として、人格の形成と進路の実現を目指して、生活指導と部活動の充実により生徒の生きる構えを培うとともに、学習指導と進路指導の充実により学びの構えを育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 授業評価、公開授業週間により、授業改善を図るとともに授業規律を高め、生徒一人一人の学力の向上を図る。 「総合的な学習の時間」の充実と「生活と学習の記録」を活用し、生徒に学習習慣を身に付けさせ、進路の第一希望実現を図る。 本校の教育活動の情報発信を積極的に行い、地域の学校として開かれた学校づくりに取り組む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	3名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価（1月31日現在）			実 施 日 平 成 2 3 年 1 月 3 1 日	
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	普通教室の冷房化など落ち着いた学習環境が整備されている。 授業は静かに聞いているが、自ら積極的に学習する意欲に欠ける生徒も多い。家庭学習が不足している。 教科会の時間を設定することが難しいが、組織的・計画的な学習指導をする必要である。	授業改善を始めとする学力向上に関する取組	<ol style="list-style-type: none"> 1月1回教科会の研修を行う。 校内相互授業公開を実施する。 校内評価システムを確立し、アンケートの実施、集計し、結果のフィードバックを実施する。 「生活と学習の記録」実施・指導を行い、家庭学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業が分かると答える生徒の割合 6割 進研模試偏差値50以上 7割 平日の家庭学習時間（隙間時間を含む） 学年+1時間 	授業評価の結果、授業内容が「理解できている」「ほぼできている」の割合、 全体：54% 11月の進研模試において、偏差値50以上の割合は、 1年：52.5% 2年：18.9% 3年文：44.4% 理：22.5% 直近の「生活と学習の記録」では、平均家庭学習時間は、 1年：1時間14分（1日） 2年：1時間21分（1日）	B	授業評価を9月に実施し、その結果を10月に提示した。結果のフィードバックが遅れ、学年・教科等の課題の検討が次年度となった。 教員相互の授業公開週間を年間3回実施したが、積極的な活用とはならなかった。 授業見学や授業評価結果等を踏まえた、教科での研修、更なる授業の改善が必要である。	
2	本校入学生生の95%以上が大学進学を希望している。ここ数年、大学進学率が80%前後で推移している。 組織的・計画的な進路指導計画ができていない。 隙間時間などの活用ができていない生徒が多い。 進路意識に目覚めるのが遅い生徒がいる。 生徒の自主性、自立力の育成は継続的に必要がある。	自立力の向上と進路希望の実現への取組	<ol style="list-style-type: none"> 1生徒学習計画書の作成し、予習復習の時間を増やす。 2面談指導を学期に1回実施、充実を図る。 3進路検討会議等により、進路コンサルティングを充実する。 4総合的な学習の時間を活用し自立力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間皆勤生徒数 300名 部活動加入率 1・2年 100% 3年 90% 第一志望合格率 50% 早慶上智理合格30件 国公立合格50件 	皆勤者数(12/24現在) 3年生： 1年間皆勤者：144名(40%) 3年間皆勤者：77名(21%) 部活動加入率(1/25現在) 1年：102.7% 2年：96.2% 3年：88.4% (3/15現在) 早慶上智理合格4件 国公立合格18件	B	三カ年皆勤者数は、昨年比7名増となる。部活動加入率は昨年比2.3%減。 現在、進学に関する評価指標については、全結果が出ていないが、数値を達成するには厳しく、例年と同じと思われる。 校訓である「文武両道」の実現に向け、伝統を重んじながら、新たな試みが必要とされる。	
3	学校の教育活動に、保護者は協力的である。 学校説明会等への参加者が減少傾向にある。 中学校への働きかけが、不活発になっている。 本校受検志願者が減少している。 教育活動に関して中学校や中学生等に情報を発信することが必要である。	開かれた学校づくりの取組	<ol style="list-style-type: none"> 1ホームページを業者に委託し見やすい分かり情報を発信する。 2ホームページの更新の分担を明確にし、常に新鮮な情報を提供する。 3学校説明会を年5回実施し、充実を図る。 4学校評議員・評価懇話会を年3回開き外部からの意見を教育活動に積極的に反映する。 5中学校訪問の分担役割を明確にし、年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページアクセス数 月：1,000回 各学校説明会参観者数 参観者：1,000名 	ホームページを改善して、情報発信力のあるものとなった。7月～12月の月平均アクセス数 15,970回 学校説明会年間5回実施し延べ1,901名の参加者を得た。 学校評議員・評価懇話会は年2回の開催となった。 中学生による上級学校訪問 22中学162名来校、中学PTA 7校312名、中学での説明会10校 全教員による中学訪問 年2回	B	企画部会を中心に、全教員による組織的・計画的な生徒募集を行ったが、現在のところ、本校への志望状況は、昨年比50名減となっている。 次年度、ホームページに更に改良を加え、ブログ形式を多く入れた、発信力のあるホームページとなるよう、組織的に取り組む必要がある。	

図書館におけるすぐれた教育実践を市内の小・中学校に伝える取組を進めていただいているが、今後も連携・協力を一層推進していただきたい。その一環の具体例として、近隣幸松地域の小・中学校生、保護者等が貴図書館を利用させていただけるような体制をつくっていただけないのでしょうか。
これまでのホームページ運用をさらに検討し、新しい情報を、積極的に頻繁に発信することができるよう取り組んでいることは大きく評価される。今後は動画情報を織り込むことで、より魅力的な東高校をアピールすることができるかと考える。